時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には每號詳細なる商況物價の報告

時事新報

第三千四百八十七號
明治廿五年十月三十日　日曜日
當暦壬辰九月十日
（西暦一千八百九十二年）

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價郵送料廣告料は左の如し

時事新報定價

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月刊休刊

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるあと寡から ず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信をさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

機密費

政黨の運動は錢を要するものなり政務の調査と云ひ地方の遊說と云ひ何れも然らざるなきは申す迄もなく黨略上の運轉駈引に至りては人知れず費すみとも多く其運動いよ〳〵活潑なれば隨て費用もいよ〳〵大ならざるを得ず即ち政黨に運動費の必要なる所以なれども政府の機密費も亦これに異ならず例へば地方の政況民情の如き當該の有司よりして夫れ〳〵の具申報告もある可しと雖も是れは表面の沙汰にして政機の局に當りて精密に事を處するには裡面の詮索も必要にして內々に調査し內々に探訪せしむるみともある可し對議會の策の如き殊に表裏の手段を要するものにして議員の去就向背を觀察し又は世論を導て人氣を取るが如き何れも必要の手段なる可し殊に外交政略に至りては裡面の駈引最も大切なり條約改正と云ひ又は東洋問題と云ひ其機運全く熟していよ〳〵表面の事實に現はるゝ迄の間は何れも當局機密の仕事にして其間に要する苦心壺力は尋常のものに非ず凡そ右の如き種類のものは政府の當局に欠く可らざるの務にして之が爲めに費用を要するみと少なからず即ち機密費の必要なる所以なり故に機密費は政府に欠く可らざるのみか多々ます〳〵多きを願はずと雖も他の經費の如く豫算に於て說明するとを得べからず如何となれば之を說明して其用途を分明ならしむれば機密の機密たる效用を失して得る所なきに終る可ければなり機密費の性質は斯くの如きものにして其政府に欠く可らざるは政黨に運動費の欠く可らざるに同じとすれば金額の多少は政務の緩急如何に由るものにして政府の方針、百事に退守を旨として事の緩急を意とせざれば格別なれども若しも然らずして內外の急務に政府の分を盡さんとするときは其手段の活潑なれば活潑なるほど益々機密費の必要を感ぜざるを得ず今日の政治に百般の制度全備すと云ふと雖も一文の錢を費さずして十分の結果を得んとするは油を差さずして機關を運轉せしめんとするが如し如何に精巧なる構造にても曾て用を爲さゞるのみか時としては危險も亦計る可らず機密費は政機の油なりと知る可し聞く所に據れば明治政府には豫算上の定額外に機密に屬するの費額を備へて年來の使用に乏しきを告げざりしが前內閣のとき政治上に種々の事端多かりしが爲めに費したる所少なからざる其上に本年の臨時總選擧に際して大に支出の要を感じ殆んど囊底を叩て之に注ぎたるも尙ほ足らずして他より借入れ或は一種微妙の節より供給を仰ぎたるなどの風聞さへもありし程の次第なれども今は其供給の道も全く鎖されたる由なれば豫算の定額を外にして機密費と名づく可きものは皆無の姿なりと云ふ政府の內情は我輩の知らざる所なれども若しも果して去る事實もあらんには當局の困難察せざるを得ず現に政府の爲す可き仕事は甚だ多し第一に對議會の策は如何す可きや或は現政府の方針は所謂超然主義にして議會の向背などに掛念して種々の手段を運らすが如きは屑よしとせざる所なりと云はんか目下に差掛りたる外交問題の始末は如何、專ら平和を旨とする程の次第なれども其實に行はんとするには當局者の方寸に出で〻人に知らしめざる虛々實々の手段は決して尋常一樣のものに非ず數年前の有樣ならんには政府の筋に其貯なきもせよ所謂紳士紳商の輩などの中には自から進んで御用を勤むるものもありしならんなれども今日の世態は全く別にして假令ひ他より促さるゝも斷然みれを謝絕する程の次第なりと云へば是れも到底頼む可らざるが如し目前に爲す可き仕事は甚だ多くして之に要する費用の出處なしとあれば何事も餘儀なく思ひ止まるの外はある可らず機密費空乏の風說果して事實ならんには我輩は餘所ながら政府の爲めに其困難を察し入るものなり

官報

○遞信省告示第二百五十七號
自今英領殖民地「タスマニア」ト水液脂肪類見本ノ交換ヲナサス
明治二十五年十月二十九日　遞信大臣伯爵黑田清隆

○遞信省告示第二百五十八號
來十一月十六日ヨリ左ノ各局ニ於テ郵便貯金事務ヲ取扱ハシム
明治二十五年十月二十九日　遞信大臣伯爵黑田清隆
下總國千葉郡幸田郵便局
下總國東葛飾郡鎌ケ谷郵便局
上總國望陀郡廣岡郵便局
下總國香取郡伊能郵便局
下總國下埴生郡三星郵便局
肥前國南松浦郡有川郵便局

○遞信省告示第二百五十九號
來十一月一日ヨリ駿河國靜岡市賓田町郵便受取所ヲ同市傳馬町ニ移シ傳馬町郵便受取所ト改稱ス
明治二十五年十月二十九日　遞信大臣伯爵黑田清隆

○遞信省告示第二百六十號
但馬國出石郵便電信局ニ於テ來十一月一日ヨリ歐文電報及歌字又ハ亞剌比亞數字ヲ記入シタル和文電報モ之ヲ取扱フ
明治二十五年十月二十九日　遞信大臣伯爵黑田清隆

雜報

○警視廳告示第十一號
芝區二本榎西町高輪南町ニ於テ本月二十日以來牛痘發生傳播ノ兆候有之ニ付二本榎西町二本榎一町目同二町目白金猿町白金今里町白金丹波町一圓高輪南町ノ內四十六番地ヨリ五十九番地迄及ビ麻原郡大崎村ノ一部ヲ劃シ牛ノ出入往來ヲ禁止ス
明治二十五年十月二十九日　警視總監園田安賢

○倫敦の米穀市況　去る九月二十一日附を以て倫敦莊在の大越領事より同地の米穀市況を報告したるものを見るに云く

當府米穀取引は引續本語發の委にして相場上免ゴ騰勢なく殊なるラングーン產先物一本（凡そ三斗五升）に附き七志七片半より七志十片半の間にて賣買せり日本米は決して其需要を失ひたるにあらざれども遙地に於ける市價未だ下落せずして投機賣買のため依然高價を維持せるため輸入する市價未だ下落せずして其需要を失ひたるにあらざれども遙地に於ける市價未だ下落せずして投機賣買のため依然高價を維持せるため輸入する市價未だ下落せずして此三四箇月間市場に上りたる高極て少量なり昨年九月一日迄で本邦より輸入及び統海中の米量八萬二千五百噸餘なりしが本年同時期には殆と其半高に減縮し四萬千八百十一噸に過ぎず又相場の如きも昨年の當時には本邦米一本に附き十一志九片の高價を保ちしに反し今年は僅り日本米に限るにあらずして一般に下落せり影響を蒙りたるに相違なしと雖も本邦に於ける同品の相場は決して當府（英國）かざるを陪するに足るべし如何ともなれば本邦米高價なれば其供給を仰かずして他國米を以て其需要に應ずれはなり

本年一月より本月一日迄で凡り八箇月間東洋諸國より歐洲（輸入及び回清中の米量總高に於て昨年と差一たる增減なしと雖も本邦米の半高に減一たる代に本年に於て著き增加を所一たるは樂徳米にして昨年に一萬三千八百噸に過ぎざりしもの本年は殆と十倍に增し十三萬四千四百四十二噸の巨額に達せり

而して世界各米產地より歐洲に向け輸送せる總高は八十八萬一千五十二噸即ち六百十六萬七千三百六十四石なり今之を細別して表記すれば左の如し

種類	歐洲（著高噸）	東海中（著高噸）	合計
極印ランーグン	二四九、五九二	五九、四一五	三〇九、〇〇七
同バキーン	七二、三九七	二一、七二一	九四、一二五
同アキアブ	一二三、一一六	一一、九五五	一三四、六一一
同ムールメイン	六五、〇六五	八、四〇五	七三、四七〇
印度ベンゴール	八一、六八九	五二五	八二、二一四
日本	四一、三一一	五〇〇	四一、八一一
柴橋	七九、〇三七	五五、四〇五	一三四、四四二
還元	一、三六二		一、三六二
合計	七二三、五六九	一五七、四八三	八八一、〇五二

右は歐洲の各港に輸入せるものにして其消費區域は歐洲諸國に亘るものなり近時歐洲に於ける米穀の消費力は俄に增加したりと云ふも八ケ月間の輸入高僅かに六百餘萬石に過ぎず尙ほ將來需要の增進すべき餘地あるを見るべし又右報告發送の當時即ち去月二十日頃倫敦の米穀相場は一本（凡そ三斗五升）に付左の如し

日本米
ベンゴール
同　上
同　並
同　下
極印ランーグン
同バキーン
同アキアブ
同ムールメイン
同チクランジー

表中にある如く日本米は九志六片乃至十志なり一本を三斗五升とし爲替相場を二志十片八分の三として之を算出する時は現今倫敦に於ける日本米は一石凡そ銀貨九圓四十七錢餘より九圓六（十三錢餘の相場なり

○甲武鐵道延長線路許可の決議　過日の本紙に記載せし如く東京市區改正委員中三四の人は去る二十三日甲武鐵道會社の技師を伴ひ實地を檢査したる末遂に差支なき旨委員會（報道したれば一昨日開會の委員會に於て設計上に一二の修正を加へ遂に許可して差支なしとの決議を爲しその旨內務大臣（眞議したる由なれば同會社三崎町線路敷設の本免狀を不附せらるゝも遠からざるべしと云ふ

○京都工藝覽會の開設　るものの多かり川風水の美込にて京都を蒐集し觀との目論見

○牛の通行　警戒を與へられたるを以の往來を禁ぜ

○大坂に於て川子遊說の昨廿九日平谷品三氏の爲め去る田停車場に場に於て實議したるとり招

○シカゴ博大博覽會（事なりしが二十六年一は各出品は

○撿査の遲り相場新聞來右等の誤中なるが如米間屋市場了の沙汰

○吉田監察信監察官吉

○停職を命十八日停職

○空包發火に於て空包

○一文錢の一文錢の商日の本紙錢と原本價あり

○銅錢真贋於ては銅員と偽稱氏當銅に官に面會の件を中於ける銅錢

在勤の杉村位なき旨

○銅錢真贋於ては銅員と偽稱氏當銅に官に面會の件を中於ける銅錢

價値なきは朝鮮政府（

り遂に公發